

ずいそう

日本一低い山「天保山」



川本正之

先日、上京の折に本誌編集委員から原稿依頼を受けた。その帰りの新幹線に次のようなテロップが流れていた。日本一低い山「天保山」の登山認定証が5万枚を突破した。と、これだけでは何のことか分からない向きが多いと思うので、今回の依頼に応えようと思った。

私は、退職前約半年間(2000年)だけ西日本支社勤務をした。大阪という所は、いろいろと面白い都会である。その中でも、ある大阪の人が私の山登り好きを聞いて、日本一低い山へ案内しようと連れて行ってくれた。それが「天保山」標高4.5mである(図-1)。登山後、近くにある喫茶店で登山認定証をいただいた(図-2)。

天保山(大阪市港区築港4丁目)は日本サイターの山として、マスコミで度々取り上げられて人気が高まり、いまや年間数千人の登山者を迎えている。天保山は天保2年(1831年)船の航行を妨げる安治川の底の土砂を浚渫、岸に積み上げてできた人工の山である。



図-1 日本一低い山「天保山」の標識

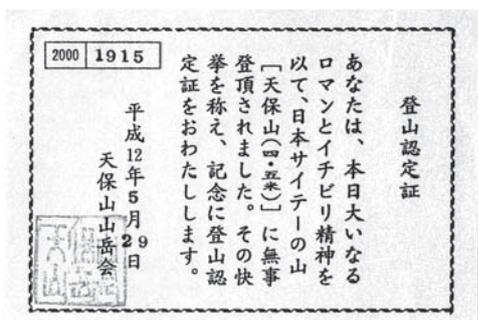


図-2 登山認定証

当時は高さ18~20mぐらいあり、後に松や桜を植え、ふもとに掘り割りをつくるなど公園のようにしたところ、遊覧船が増えて浪速随一の名所となった。その賑わいぶりが公園入口のタイル絵に描かれている(原画は初代歌川貞升)。

しかし、幕末には外国船が出入りするようになって、警戒のため山に砲台がつくられた。明治以降は周辺の埋め立て用に山が削られるなど、次第に低くなった。戦後は、工場による地下水の汲み上げで、地盤沈下を起こし、とうとう4.5mになってしまった。平成6年、もはや山ではないと地形図から消されたが、山の好きな人や地元住民の運動で復活した。ちなみに日本で2番目に低い山は、日和山(6.05m・仙台市)、3番目は弁天山(6.08m・徳島市)となっている。

平成12年(2000年)5月3日の大阪新聞記事によると、「山男」火災から再起という見出しで、自宅(薬局)が突然の火事で全焼、転業して喫茶店「山小屋」を開業したそうである。以前(薬局)の時からアイデアマンで、天保山登山者に認定証を無料でプレゼントしていた。「火事を出して薬局が焼け、もともと不況で売上げが頭打ちだったこともあり、思い切って転業を決めた」と「天保山山岳会」事務局長の橋本誠さん。登山者が休憩できるような店をやりたい、と喫茶店開業を決心した。平成10年(1998年)夏にシャレで配り始めた認定証だが、マスコミに何度も取り上げられ大人気に。「台湾や米国からも」「ほしい」と言ってくる人がいる。認定証を配る場所が絶対に必要だと思った、と戦後すぐから営業している老舗旅館の広間を借り上げ、純和風の落ち着いた座敷となっている。

天保山登山の認定証は「山小屋」の玄関でこれまでどおり無料でプレゼントするが、「ついでに中に入ってお茶でも飲んでもらったら…」がホンネ。橋本さんは「座敷でくつろげる喫茶店は大阪では珍しい。登山で疲れたら、ぜひウチでゆっくり休んでください」とPRしている。

この認定証の中の「イチビリ精神」の、意味をその時大阪の人に問うたが、どうも正確な意味は今もってわからない。